

メータオ・クリニック支援の会（JAM） 会報メール 第90号

〔2016年12月

号〕

NPO法人メータオ・クリニック支援の会（JAM）支援者の皆様

いつもご支援していただき、誠にありがとうございます。
JAM 会報メール第90号をお送りします。

JAM は2008年3月に発足されたNGOです。ビルマ／ミャンマーからタイへ貧困や戦火を逃れてきた人々の病院、メータオ・クリニックの活動を支援する目的で設立されました。

支援者の皆様へJAMの最新の活動をほぼ毎月中～下旬ごろ会報メールにて発信いたします。
今後ともどうぞよろしく願いいたします。

<目次> [ページ]

クラウドファンディングに挑戦中！【ついに目標300万円の50%目前！】

メソトマンスリー

国内から

現地派遣員活動報告会&交流会開催のご報告

国際保健医療協力のなかで (35)

編集後記

次号の予定



賛助会員の皆様へ 会員更新のお願い

平素よりメータオ・クリニック支援の会（JAM）の活動に深いご理解とご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。この度、賛助会員の皆様へ会員の更新をお願いしたく、ご連絡いたします。

当会は賛助会員の更新時期を年末に揃えさせていただいております。今回、平成27年7月～平成28年6月までにご入会および更新してくださいました皆様へご案内させていただきます。

これまで JAM の活動を応援してくださり、誠にありがとうございました。引き続きご支援を賜りたく、ご賛同いただける方は下記の要領にて会員更新の手続きを宜しくお願いいたします。

ご不明な点がありましたら事務局 (support@japanmaetao.org) までお問い合わせください。

更新の対象となる方：平成27年7月～平成28年6月までに入会および更新いただいた皆様

会員期間は平成28年12月末をもちまして終了となります。

更新いただける場合は、お手数ですが平成29年1月末までに手続きをお願いいたします。

更新後の会員期間は平成29年12月末までとなります。

すでに会員期間が過ぎてしまった皆様におかれましても、新たに賛助会員としてご支援いただきましたら大変有り難く存じます。手続きの方法は同じです。どうぞよろしくをお願いいたします。

なお、更新を希望されない方につきましては、手続きはご不要です。またご支援いただける機会をお待ちしております。

賛助会員 更新手続き（年会費入金）の方法について

■下記の年会費をお振込みください。

ホームページ (www.japanmaetao.org) からクレジットカード決済も可能です。

「あなたとできること」→「賛助会員になる」の下「クレジットカードによるお申し込みはこちら」へお進みください。

<年会費> 一般会員： 3,650円/年
学生会員： 1,825円/年
法人会員： 36,500円/年

<振込先口座>

ゆうちょ銀行（銀行コード9900）

支店名：〇一八（ゼロイチハチ）

口座名義：NPO法人 メータオ・クリニック支援の会
（カタカナ） トクヒ）メータオ クリニックシエンノカイ

口座番号：10140-8960841

*他行からのお振込みの場合 普通 0896084

※ 当会が入金の確認をもって手続き完了となります。メールにてお



■注意事項

・住所、氏名、メールアドレスに変更がある場合、振込名義がご本人でない場合は、事務局 (support@japanmaetao.org) までご連絡ください。

※ 期限を過ぎてからご入会される場合は、ホームページより新規の方法でお手続きください。



クラウドファンディングに挑戦中！【ついに目標300万円の50%目前！】

このたび、J AMは、初めてのクラウドファンディングに挑戦しています。

<https://readyfor.jp/projects/maetaoclinic-nurse>

先月から、ミャンマーの診療所で診察を待っている13万人の移民に医療を届ける！という内容でクラウドファンディングを始めました。

これまで120人以上の方にご支援を頂き、なんと目標の半分150万円を目前というところまで来ました。皆様のおついで応援コメントに励まされて、日々頑張っています。

ご支援いただいたみなさま、本当に有難うございます！プロジェクトの達成に向け精一杯頑張ります。

クラウドファンディングとはネット上で少額ですが資金を集める事を言い、募集期間内に目標金額を達成しなければ、支援が集まっても0円になってしまいます。あと150万円以上集めなければ、プロジェクトが不成立として終わってしまいます。たくさんの応援してくれた皆様の期待に応えたい！どうかご支援による応援をよろしくお願いいたします！

ご不明な部分があれば、お気軽にメッセージください。どうか温かい応援をよろしくお願いいたします！

このプロジェクトは**12月30日(金)午後11:00までに3,000,000円以上集まった場合に成立となります。**

(※クレジットカードでのお手続きは12月30日まで、銀行振り込みでのお手続きの場合は12月27日14時までで受付終了となります)

300万円に1円でも満たなかった場合は、不成立となり、集まったお金は、全額、ご支援を申し出ていただいた方々に返金となります。

**タイ・ミャンマー国境の街に設立された、総合診療所「メータオ・クリニック」
13万人のミャンマー移民の命を支えるため、看護ケアスタッフを育てたい！**





【詳しくは・・・】

「READYFOR」を検索してサイトにアクセス

↓
ページの下のほうにある「募集中のプロジェクト」をクリック。

↓
いろいろな方々のプロジェクトが掲載されています。
(見ているだけでも、とても興味深いです)

↓
その中から・・・

**タイ・ミャンマー国境の街に設立された、総合診療所「メータオ・クリニック」
13万人のミャンマー移民の命を支えるため、看護ケアスタッフを育てたい！**

をみつけてクリック！

↓
プロジェクトの詳細が書いてありますので、ご覧いただき、ご支援していただければ幸いです。

先月に続き、再度のお願いではございますが、どうぞよろしくお願いいたします。

メソトマンスリー

【メソト＝神谷 友子】



最近のメソット

皆様 こんにちは。

メータオ・クリニックでの看護トレーニングは、チェックリストを用いた技術チェックと最終試験を無事に終了しました。現在採点中で、この記事が皆様のお手元に届くころには、トレーニングの修了式も終えているかもしれません。この看護トレーニングは、メータオ・クリニックでは以前にも取り組んだもののスタッフになじまず、なかなかうまくいかなかったそうです。今回こそは！とクリニックでも力を入れて取り組んでいました。終了式の時に



は、看護学校の実習生がよく行っている戴帽式のようなものを行ったらどうか?などと現地スタッフから提案がありました。今年の3月から始まって25名のスタッフが参加したトレーニングですが、実技チェックと最終試験をパスして何名のスタッフが看護スタッフとして認定されるか、トレーニング生も私もドキドキで結果を待っています。

今、私は11月末に開催した東京での活動報告会やミャンマー祭りの参加のために帰国して、次の活動に向けて準備をしています。日本で会った方、メッセージを送ってくださった方、本当にたくさんの人から励ましの言葉を頂きました。昨年8月から現地での活動を始めて1年と3か月、皆さまの応援に支えられて活動できたことを改めて実感しています。心より、ありがとうございます。

クリニックには、継続的なサポートが必要です。引き続き、メータオ・クリニックとJAMへのご支援をよろしくお願いいたします。

国内から

【東京＝田辺】

日頃よりメータオ・クリニックおよびJAMの活動を支えていただきありがとうございます。事務局の田辺と申します。

私は現在フランス北東部の国境の街、ストラスブールに住んでいます。ライン川を隔てた先はドイツ。国境は自由に人が行き交い、夏には川岸でクラシックのコンサートが開かれます。何世紀も両国が取り合ってきたこの地域の平和的な光景に、争いの後に築いたものの大きさを感じます。

しかし、広くヨーロッパを見てみると、移民問題が各国を大きく揺り動かしています。東欧諸国からのEU内移民、そしてシリアや北アフリカ諸国からの移民です。

東欧諸国とフランス、イギリス、ドイツには大きな所得格差が存在します。さらに同国の手厚い社会保障制度も移民を引き寄せています。以前、子どもの福祉施設を見学しましたが、障害を持ち医療やリハビリを受ける子どもたちの3割近くが東欧からの移民でした。フランスの障害児に対する手厚い医療と家族への生活保障を目当てにEU内から移り住んで来るのです。

シリアや北アフリカからの移民は、短期間に激増し定住への支援が追いつかなかったこと、宗教が異なるために文化的な軋轢が生まれたことから、社会的な負のインパクトは大きなものでした。

現在、世界中で移民排斥、反グローバリズム運動が盛んになっています。フランスも例外ではありません。その論拠として、

1. 移民が労働機会を奪い賃金を押し下げている（フランスの失業率は10%前後を推移）
2. 移民は福祉を受ける人が多く社会の負担となっている
3. 移民の受け入れは、犯罪やテロの増加といった治安の悪化につながる
4. （主にイスラム教徒を指して）移民はフランスの自由、平等といった基本的な価値観を共有せずアイデンティティの脅威となり得る、というのが主なものです。

これらは説得力があるように見える一方で、感情的な議論だとも言えます。ベンジャミン・パウエルはその著書「移民の経済学」で、アメリカの移民に対して行われた多くの研究から、



移民が受入国の賃金や経済に与える負の影響はほとんどないか、あってもごくわずかで、長期的には利益になる、また、移民は自国生まれの市民に比較して受ける福祉は少ないと結論付けています。

「教育レベルが低い低賃金労働者に犯罪者が多い」と「移民は教育レベルが低い傾向にある」という事実から、「移民は犯罪者が多い」と判断するのは短絡的と言わざるを得ません。

メータオ・クリニックの周辺、タイとミャンマーの国境には多くのミャンマー移民が生活しています。その理由は、紛争や地雷で家や農地を失くしたため、民族的・政治的迫害から逃れるため、就業機会を得るため、教育機会を得るため、と様々ですが、これらは簡単に線引きできるものではありません。いずれにせよ、彼らはタイの経済を底辺から支えています。私たちが日本で重宝するタイ産のむき海老工場労働者の多くは、ミャンマー移民です。しかし彼らは、ステータスの問題、言葉の問題、情報弱者であるという背景から、社会保障をうける機会は制限され、特に医療が必要な事態には行き場を失います。そんな彼らの受け皿になっているのがメータオ・クリニックです。

しかし、クリニックはタイの地域医療システムの一部となることを目指し、その質を上げる努力を続けています。タイ側の対応は政情の変化もあり一定しませんが、長期的には移民労働力を重視し、身分を保証することでさらに安定した労働力や税収を目指す方向かと思えます。まだまだ課題は山積みですが、移民の定住化という意味では先進的な地域だと常々思っています。

先日、クリニックのミャンマー人医療スタッフとオンラインで話しました。彼はタイで生まれた自分の息子を移民学校でなくタイの公立学校に入学させました。その子は、将来タイ社会で立派な納税者となり、ミャンマーのコミュニティも助けていくでしょう。

メータオ・クリニックの院長、シンシア・マウン医師は、多様性を持った人々が共同体として生きることの大切さを訴えます。そして「勉強は遠くでするのが、医療は近くで受けるのがいいわね」と語ります。彼女には、人の流れが自由になった未来が見えているようです。

声高に叫ぶ反グローバリズムは、止まらないグローバリズムの反動にも思えます。移民が軌轢なく受け入れられ、本人にとっても受け入れ側にとっても、利益を生み出す未来が一日でも早く訪れることを切に願います。

来年も皆さまにとって良い年になりますよう、お祈り申し上げます。

ミャンマー祭りに出店しました！

【東京＝白壁】

11月26日（土）、27日（日）、ミャンマー祭りに出店しました！両日とも天候に恵まれ、たくさんの来場者で賑わった2日間となりました。

JAMのブースでは、活動紹介のパネルを掲示し、お立ち寄りいただいた方々へ活動紹介や民芸品、メータオ・クリニック限定グッズの販売などを行いました。

今回はミャンマーに特化したイベントということもあり、ミャンマーに関心のある日本の方々や在日ミャンマーの方など、メータオ・クリニックやミャンマー情勢に詳しい方も多くお立ち寄りいただき、私たちにとっても有意義な情報交換の場となりました。



ボランティアでご協力いただいたみなさま、ご来場いただきました皆様、誠にありがとうございました。来年もイベントを開催予定ですので、ご都合がございましたら、ぜひ会場にお越しください！

現地派遣員活動報告会&交流会開催のご報告

【東京＝淵上】

11月27日（日）ミャンマー祭り2日目終了後、会場近くのレストランにて「現地派遣員活動報告会&交流会」を開催しました。

ミャンマー祭りに続いてお疲れのところご参加くださった方、また遠方よりお越しくださった方もいらっしゃいまして、ご参加いただきました皆様に心よりお礼申し上げます。

今年は、初めてレストランを会場にして食事をしながら歓談できる時間を挟んで進行していきました。これまで以上に和やかな雰囲気で開催できたことと思います。

現地派遣員の神谷からは「1年間の活動を振り返って—今メータオ・クリニックで求められていること—」と題して、活動報告をさせていただきました。身寄りのない患者さんは着替えがなかったり、食事や排泄などの生活ケアが受けられなかったりする現状があるにもかかわらず、クリニックのスタッフはその状況を放置したままでした。そこでスタッフの意識・技術不足を改善するべく今年スタートしたのが「看護ケアトレーニング」です。その様子が写真を交えながら具体的に説明されました。メータオ・クリニックを訪れる患者さんの数はわずかに減少している一方、慢性疾患の罹患率上昇、また高齢化も加担して入院数は増加しています。そのため入院中の看護ケアの需要は今後ますます大きくなっていく現状が伝えられました。

また今回、初めてゲストとして在日ミャンマー人の方にお越しいただきました。ニュースでは伝わって来ない民主化後のミャンマー国内の状況、帰還した方々の様子などを伺うことができ、皆さん真剣に耳を傾けていらっしゃいました。

活動報告会は毎年開催しています。会報だけでは十分にお伝えできないことも含めて、現地の状況や日本での活動について皆様に直接お話しできる年に一度の機会です。そして日頃ご支援くださいます皆様や初めて JAM に関心を持ってくださった方々と、直接お会いできる機会でもあり、JAM が大切にしているイベントです。

また来年、皆様のご参加をお待ちしております！





会場の様子



活動報告をする神谷看護師

ご支援くださる皆様との交流が私たちの活動の励みとなります。ご参加くださいました皆様、本当にありがとうございました。



国際保健医療協力のなかで (35)

【東京＝小林 潤】



リオオリンピックでは難民のオリンピック選手団ができた。国を背負った代表選手でない10人が選ばれ活躍した。世界が保護主義に動くなかで活気的な素晴らしい出来事だと感動した。国連難民高等弁務官事務所（UNHCR）が長年難民にスポーツの振興をはかってきた結果、小さな花が咲いた。

残念なことは10名の選手団のなかにミャンマー難民の選手はなかった。タイ・ミャンマー国境からいまだ動けない難民は多く、タイは正式に難民を認めてきていない。さらにあまりにも長い期間、難民が国境地域に居続けることになってしまった。また現在ミャンマーの民主化によって国境地域の難民は世界から見過ごされつつある。しかし民主化された現在祖国に帰りなさいといわれても帰ることができないことが現実である人が大多数であることはすでに報告されている。帰りたくても自分の家はない。あまりにも長いために親戚もどこにいるのかわからない。さらには全く祖国を知らないで難民キャンプで育った子供たち、いやすでに青年となった者も多い。

青年期はあまり死にはしないが、人間形成の大切な時期で、実はアジアでは青年期の自殺は増加傾向にあり深刻な問題となってきている。小さい子供や、それを保護する女性は、社会的弱者として支援する対象として長年注目をされてきて、大きな投資もなされてきた。これは難民でも例外ではない。しかし青年期の子供たちは、感染症や生活習慣病で死亡率が高い年代ではなく注視されてこなかった。

今月、保健の世界戦略のなかで初めて青年期の保健が大きく取り上げられるにいった。世界の生産年齢層は減少しており、アジアの多くの国は高齢化社会に突入してきている。これは難民社会も例外でなく、多くの高齢者がメータオ・クリニックを訪れている。高齢者に対しての医療やケアを充実されるのも大切なのだが、生産年齢層の質を高めることが未来にむけて重要であることは、おそらく多くの人は否定しないであろう。多くの青年が、帰る国がなく、現在住んでいる場所でも社会に居場所がない状態が続いている。世界で難民は増え続けている。これらの青年に積極的に教育の機会を与え、質の高い人材として受け入れる国が増えていくことはやはりもうないのだろうか。

日本もやっと、海外の生産年齢層を積極的に受け入れる政策を取り入れる方向に舵をきった。しかし難民の積極的受け入れについては、聞こえてこない。

編集後記

当会では毎年、賛助会員の皆様やご支援くださいました皆様への感謝の気持ちを込めて、この季節にオリジナルカレンダーをお贈りしています。昨日、その発送作業を行いました。そろそろ、ご登録いただいているご住所に届く予定です。

毎年、卓上で使いやすいと好評のカレンダー。どうぞ来年もご活用ください。そして、来年もJAMをどうぞよろしくお願いいたします。

次号の予定

次号は、1月中～下旬ごろ配信の予定です。



